

速報！ 2010国勢調査

平成22年10月1日現在の山都町

人口 16,991人

世帯は 5,905世帯

昨年10月に実施された国勢調査。調査にご協力いただきありがとうございました。熊本県内の速報値が公表され、山都町の人口・世帯数は、前回（平成17年）と比較して、次のとおりとなりました。

人口減少数
-1,770人

人口減少率
-9.43%

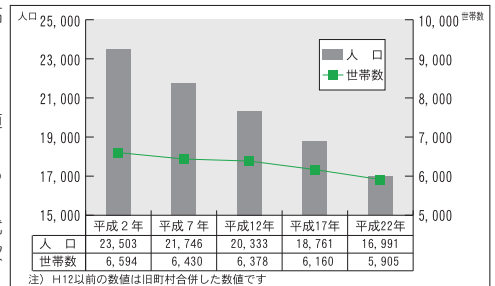
世帯減少数
-255世帯

山都町の人口は、43,098人（昭和30年調査）を最高に減少しつづけています。

減少率-9.43%は、県内では球磨村（11.24%）、五木村（11.19%）に次いで3番目に高い数値です。1世帯あたりの平均人員は2.88人で、前回値（3.05人）と比べて、0.17人減少しています。

※この結果は現時点での速報値で、今後公表される数値と異なる場合があります。

また、男女・年齢別の人口、就業者数、産業別就業者数、職業別就業者数などの集計結果は、順次公表されます。



町長室から

甲斐 利幸

去年の暮れからの厳しい寒さも、二月に入って、漸く、少しやわらぎました。近年では、珍しく北向きの雪がなかなか溶けず、水道管の事故が続きました。

それにしても、豪州の大洪水や新燃岳の噴火等国内外での天変地異に不気味さを覚えます。宮崎県では、口蹄疫に続き、鳥インフルの流行の兆しに加え、新燃岳の降灰の被害と重なる不運に隣県に住む者として胸が痛みます。

アフリカ大陸のチュニジアやエジプトの反政府運動の高まりは、独裁政治の苛酷さに耐えかねた大衆の怒りの蜂起であり、中国の諺である「苛政は虎よりも猛し」が、今なお通用する政治が跋扈していることに対し進歩発展のない愚かさ空しさを覚えます。

国政が混沌としています。平成23年度の予算が成立しても、

予算関連の法案が国会を通過しなければ、多くの事業が実行できない状態で、日本の評価が国際社会で益々低くなる事を懸念しています。

なお一方、地方においては、阿久根市長選で前市長が敗れたものの、根強い人気をその獲得票の数から垣間見ることができました。名古屋市長選では、トリプル選挙で市長の個人的な政治手腕を市民が圧倒的に評価しました。

最近の選挙では、選挙民が新鮮なセンスをもった強いリーダーを期待しています。私も四年の任期を折り返す年となりました。

ゆるぎない愛町精神を堅持しながら、進行中の事業を適確に実行してまいります。私情、私心を捨て、ただひたすら皆様の幸せと町の繁栄のため誠意をもって身を粉にして、汗を流します。

政治や人に対しても臆すことよりも、良い部分を認めて、協力し、育む大らかさが今の時代には必要であると考えます。

『YOU&YOU通信』

Vol.45

～現在、交際中です～

男性Xさん(35歳)&女性Yさん(39歳)
交際期間…10ヶ月

①お互いの第一印象は？

X…明るく笑顔が素敵な女性だなぁと思いました。
Y…年齢の割に落ち着いた人だなと思いました。

②現在の心境は？

X…もう随分前から交際している様な感じがします。一緒にいて安心します。
Y…一緒にいて安心します。

③まだ参加していない独身者男性・女性へひと言

X…少しでも出会いを求めている人は参加してほしいですね。参加したならば男性の方から積極的にアプローチしてもらいたい。必ず良い出会いがあると思います。
Y…案ずるより産むが易しです。一步、踏み出すのは大変だけど簡単ですよ。

※平成23年度交流会案内※

今年度も後わずかとなりましたが、YOU & YOUでは、来年度に向けて交流会の計画をしています。来年度は、5月から30歳代・40歳代対象向けに分けて交流会を計画していますので、とても参加しやすい状況です。少しでも興味のある方は、どうぞお気軽に電話又はメールにてご連絡ください。お待ちしております。

『YOU&YOU第18号カップル誕生』

第18号の夫婦となる、上田博康さん・順子さん夫婦（矢部地区）が新年1月に誕生いたしました。お二人の出会いには、平成20年11月の大分県九重行きの40歳代交流会。出会いから、2年2ヶ月の歳月を経てゴールインされました。お二人の門出を祝福するとともに、これから二人で歩まれる未来に祈りまして、幸せな家庭を築かれることを心からお祈りいたします。



☆上田博康・順子夫婦☆

自然のなかで豊かに育つ子どもたち

矢部郷自然観察会 代表 藤吉勇治

この冬は例年になく寒さが厳しく、雪の正月となった。野生の生きものたちは冬の寒さに耐えながらも、春の訪れに向けて準備を始めている。矢部郷自然観察会では、早春に「冬を生き抜く生きものたち」と題して観察会を実施している。平成21年の早春は、通潤橋・五老ヶ滝周辺で「春の七草」を中心に観察会を行った。通潤橋周辺の田んぼの畦には、いち早く春の訪れを感じた野草が枯れ草の間から緑の葉を覗かせていた。この周辺だけで、すずな（かぶ、すずしろ（だいご））以外の5種類の七草をすべて観察できる。



平成21年2月「冬を生き抜く生きものたち」観察会の様子

子どもたちは、「七草がゆ」を食べたことのあるもの、野外で実際にそれらの野草を見た経験はほとんどない。見てはいるのだけれど、すべて「雑草」なのだった。しかしこの日から、子どもたちの認識が「雑草」から「七草」へと変わった。さて、野草の観察をしていると、子どもたちが瑠璃色に輝く小さな草の実を見つけた。ジャノヒゲの実だ。山都地域では「ごぜんだま」と呼んでいる。この日の観察会は、生きもの観察だけでなく野山での遊び体験もさせたいと考え、密かに竹でつばを準備していた。遊び方を教えると、子どもたちは「ごぜんだまを竹に詰めて遊び始めた。しかし、「たまが飛ばない」と言い始めた。「パン、パン」と大きな音を出して、たまを飛ばせるようになった。山都町には、数多の貴重な自然があり希少野生生物が生息しているが、大切なものはそれだけではない。身近な自然にもっと注目させ、自然との関わりの中で私たちが生きていることを実感させたいと思う。子どもたちは、自然体験を通して感性を豊かにし、親を身に付けていく。これからは、観察会でワクワク、ドキドキするような自然との豊かな出会いをさせたい。

●お問い合わせ先

山都町役場 浜町事務所 総務課（成瀬・吉田）
【専用電話】090-195655-9589
【専用アドレスPC】marriage-support@ovr.kumamoto-yamato.lg.jp
【専用アドレス携帯】you_and_you@doccom.ne.jp